

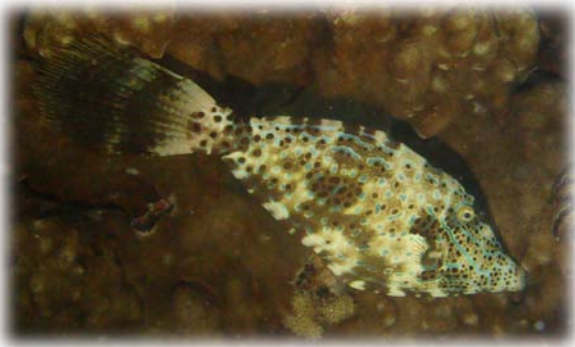


Akajima Marine Science Laboratory 阿嘉島臨海研究所

〒901-3311 沖縄県島尻郡座間味村字阿嘉179

ホームページもご覧下さい。http://www.amsl.or.jp

TEL:098-987-2304 FAX:098-987-2875 E-mail:amsl@oki-zamami.jp



●ウマヅラに注意

ーソウシハギー

新年明けましておめでとうございます。今年の日元と2日は、空は晴れて、暖かく過ごしやすい正月となりました。新年なので、今回のアムスルだよりは、今年の新支えとにちなんでウマヅラハギについて書こうと思ったのですが、考えてみると慶良間でこの魚を見たことがないことに気がつきました。図鑑で調べてみると、その分布範囲は「北海道以南、東シナ海、南シナ海」となっているので、いてもおかしくないはずなのですが、慶良間にいるという証拠がありません。この魚は本当に‘馬ヅラ’なので良い話題だと思ったのですが、残念ながらあきらめなければなりません。けれど、そう言えば、これに良く似た‘馬ヅラ’の魚が慶良間にもすんでいました。今回は、その魚を紹介しましょう。

その魚はソウシハギと言います。ウマヅラハギと同じカワハギの仲間ですが、

大きく違うのはその体の色でしょう。ウマヅラハギは全体が灰色で、ところどころに黒っぽい模様のある地味な姿ですが、ソウシハギは黄色っぽい灰色の上に黒いはんでん斑点と鮮やかな青の波模様があります。また、ウマヅラハギは大きくなってもせいぜい30cmくらいですが、ソウシハギはその倍以上の70cmをこえます。数年前までは、マジノハマのサンゴのおかげで眠るソウシハギが1匹いたのですが、それが70cmくらいの大きな個体で、夜の海で会うその姿はギョッとするくらいの迫力でした。

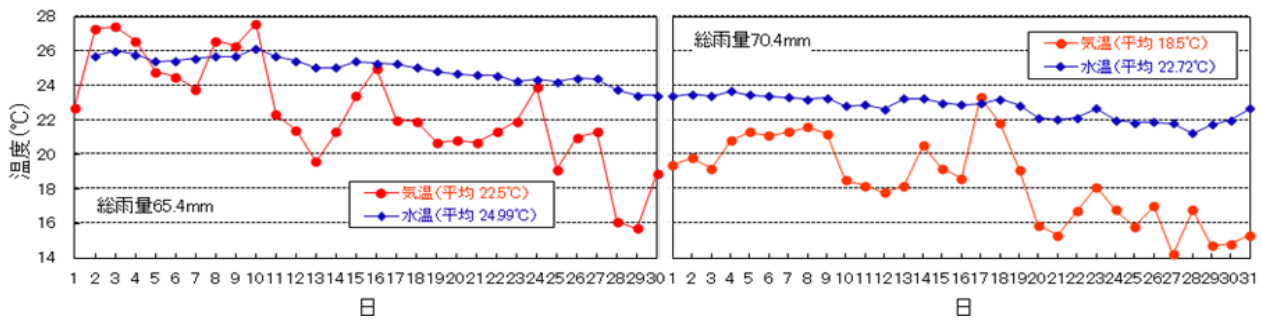
もっと小さな個体とはよく港の中で会います。サンゴを育てているカゴに寄り添うように泳いでいるのです。そして、かごの扉を開けておくとゆっくりと入っていき、なにかを食べ始めます。見てみるとイソギンチャクでした。サンゴを育てているカゴの中には、ときどきオヨギイソギンチャクなどが増えるのですが（アムスルだより No.84）、ソウシハギはそのイソギンチャクを盛んに食べるのです。イソギンチャクが増え過ぎるとサンゴが弱ってしまうことがあるので、こちらとしてはそれを掃除してくれて助かるのですが、このソウシハギのエサの好みは問題になることがあります。

それは、ソウシハギが、イソギンチャクと似た仲間のイワスナギンチャクを食べると、内臓にスナギンチャクの毒がたまり、人がそれを食べると中毒を起し

定点観測

2013年11月

2013年12月



てしまうということです。この問題の毒の名前はパリトキシンとって、生き物のもつ毒の中で一番強いものです。魚のもつ毒として、みなさんもフグの毒のことを聞いたことがあるでしょう。フグの毒はテトロドトキシンといい、やはり猛毒として有名ですが、ソウシハギのもつパリトキシンはその70倍の強さと言われています。これほどの猛毒^{もうどく}ですから、人が食べてしまうとひどい時には死んでしまうこともあります。よく似たウマヅラハギはおいしい魚ですが、間違っソウシハギを食べてしまわないように注意が必要です。

ソウシハギはそもそも南の海にすむ魚なので、以前は間違っ機会が少なかったのですが、最近北の方でも見られるようになってきました。ちょっと調べただけでも22の道府県でソウシハギが見つかっていて、九州や四国はもちろん、北海道の海からも獲れていました。それで、それぞれの県などでは、絶対にソウシハギを食べないように緊急^{きんきゆう}の警告を出しています。ちなみに、沖縄ではソウシハギを食べることがありますが、すべてのソウシハギが毒をもっているわけではないことと、身の部分だけを食することで中毒にならずにすんでいるのだと思います。人が身を食べたソウシハギの内臓をブタに食べさせたら死んでしまったという話

が残っていますから、やはり十分に用心が必要です。

ソウシハギが北の方の海でも見られるようになったのは、地球の温暖化で南からの海流が強くなり、その流れに運ばれて北上するためだと考えられています。気候の変化は、さまざまな問題を生み出すものですね。

● 阿嘉島の海より

1月3日、阿嘉島では生年合同祝い(トウシビー)が盛大に行われました。

今年の干支、^{うま}午年
生まれの数え年85歳になられる方4名と73歳になられる方2名の長寿と健康をみんなでお祝いしました。



余興では、お祝いのために沖縄本島などから駆け付けた子や孫、親戚達による踊りや演奏が披露されました。また、今年仲田幸子御一行によるお芝居も行なわれ、笑いに満ちた生年祝いとなりました。



それでは、今年も一年よろしくお願いたします。

